であろう。（中略）渡辺華山・高野長英の経世策にも、また同じく、（中略）佐久間象山や橋本景岳（左内）の開国進取の方策にも、その投影を私は見る」（四五四ページ）などという叙述に接するにつけ、回路探求に関する望蜀の思念を断ちがたかった。それは単なる排耶論の展開ではなく、〝和魂洋才的学問の態度〟の系譜上の実体的追究であり、近代国家の形成過程における近代的学問、思想への態度を波及する問題だからである。もちろん、筆者も、本書の注釈部分にこのような期待をもって望むことは、あるいは、教授の真意に反するかもしれないとも反省する、なぜならば、編集企画の指示にしたがったのか、『采覧異言』の流伝に関する例証も、「一々証拠を挙げることを差し控える」（四五四ページ）とあって、深い言及はされていないからである。

とまれ、本書に対する筆者の期待と立場から、本書を紹介する本来の趣旨を逸脱して、教授の校訂注釈作業に手前勝手な見解をながながと述べた失礼のお許しを乞い、かつ、筆者の願望が当を えていないことを深くおそれるものである。それは本書の企図と構成が、『西洋紀聞』の流布伝播、その学問思想の影響・感化に力点をおくというよりも、実は、より多く、その成立事情に精魂を傾けざるいられるからである。しかも、本書は、まさに、その点において、校訂注釈の特色が顕著としているというからである。

〔新刊紹介〕

前号で紹介した以後の地方史関係新刊書を簡単に紹介すれば左の通りである。

◎「岩木山―岩木山麓古代遺跡発掘調査報告書―」

（岩木山刊行会　九月十日発行）

本書は、昭和三三年から三六年まで弘前市教育委員会が特別調査委員会を設けて岩木山周辺の先縄文時代から土師器時代に至るまでの三二遺跡を発掘調査したものの報告書で完成が待たれていたものである。才一章発掘調査の契機、才二章発掘調の経過、才三章岩木山麓の地学的考察、才四章調査した遺跡と出土遺物、才五章総括からなる六五〇頁に及ぶ浩瀚なものである。主文である才四章は、三〇節にわたり各遺跡の発掘状況、出土品を詳細に紹介考察したもので、多数の図版・拓影・写真を附して居り、各執筆者編集者の苦心がうかがわれる。なお、この発掘調査に当っては、大森勝山遺跡の類例のないといわれる大竪穴住居址と環状列石や、大館森山遺跡を中心とする製鉄遺跡などが一般にも話題となったことは記憶に新しく、出土品の一部は弘前公園の收蔵庫（考古館）に收められて居り、四月から十一月までの間、一般に展覧されている。因に、本誌才二六号（昭和三六年才二冊）に村越潔氏が「岩木山麓における縄文時代の竪穴式住居址について」という論考を執筆されているので参照されたい。（B4判　予約頒価二八〇〇円　頒価六〇〇〇円）

◎「青森銀行史」（青森銀行　九月一日発行）

青森銀行創立二十周年を記念して青森銀行史編纂室が、昭和三八年から五ヶ年の歳月を費して編集した本文九五六頁、付篇八四頁、年表三九頁、付表五六頁に及ぶ大冊である。才一部本県における銀行業の生成と発展、才二部青森銀行二十年史、才三部青森県銀行沿革小史の三部から成るが、特に才一部即ち才五十九銀行時代に全体の半分近くのスペースをさき、弘前大学人文学部経済学教室の小林靖三郎・拜司静夫・杉山和雄の三教授がそれぞれの専攻分野を分担執筆されて、才五十九国立銀行にはじまる青森県の金融経済史を始めてまとめられたものとして高く評価される。また才三部も県内諸銀行の沿革系譜を明らかにして、銀行の消長を通して産業経済事情の推移をも窺わせるものである。本書は単なる青森銀行の行史では左く、近代青森県の金融経済史の史料であり、今後の基本文献としての事価をたかめるであろう。

（B4判　非売品　予約頒価三、〇〇〇円）

◎「津軽古事記」（津軽考古学会　十月十五日発行）

本書は五所川原市図沙内杉山一郎氏所蔵のものを津軽考古学会が謄刻し、孔版印刷によってはじめて世に出された文献史料である。内容は文禄二年から宝暦六年までの津軽藩内の重要事項の記録で、他の文献にみえない事項も含まれるというが、この史料の成立乃至執筆記録の経緯などは今のところ明らかでない。（B4判　八八頁　非売品　頒価二〇〇円）

◎歴史雑書「百年の年輪」（陸奥新報社　十月二三日発行）

青森県議会史編纂委員の著者が県広報誌「県政のあゆみ」に〝風雪の履正書〟と題して連載したものを完結を機に一本にまとめたのが本書である。「青森県の誕生」から「民主主義と花盛り選挙」すなわち昭和二一年の総選挙までを評論風にまとめ、一般の啓蒙的読み物であると共に近代青森県史として貴重なものである。特に巻末に付載した歴代知事のプロフィルは今後の活用に堪えうるものであろう。（B6判　定価四七〇円）

◎「写真青森県百年史」（東奥日報社　十一月三日発行）

本書は、昭和四三年一月から東奥日報紙上に特集として国一四ずつ掲載された約六百点の写真を一冊にまとめたものである〝青森・弘前・八戸市の昔と今、事件、両治の人々、明治大正の学校、町並み建て物、風俗、戦時下の県民生活、戦後などの項目に分類した〟目でみる青森県近代史〟である。（B4判　二〇六頁　定価一五〇〇円）

◎「明治百年、その日の出来事―青森県―」

（青森放送KK　九月一日発行）

青森放送が、テレビ放送の必要から、既刊の諸文献をもとにして編集した県内百年の事件を、日付ごとにまとめた年表である。ハンディな体裁が便利である。

（新書判　二四二頁　定価八〇〇円）

八荒井清明記〉